

日本写真印刷株式会社

(京都市中京区) 従業員数：787名



1929年に「美術印刷」を目指し、京都で創業した日本写真印刷株式会社。現在では、印刷技術を応用した樹脂の表面加飾や、タッチパネルの開発などへ事業展開をしています。障害者の雇用にも取り組み、2013年からは発達障害のある方も雇用。今後も積極的な障害者雇用を目指しています。

⇒ 働きやすくするために

現在、日本写真印刷株式会社では、3名の精神障害のある方が働いています。そのうちの一人、発達障害の診断を受けているAさんは、現在入社3年目。誠実な働きぶりで、他の社員にも一目置かれています。職場の細やかな配慮と、ご自身の工夫についてお聞きしました。

人事の方に聞きました

Aさんは優秀で、とても重要な戦力です。その能力が発揮できるようマネジメントをするのが、人事の仕事です。そのために、所属部署にはあまり介入しないことを心がけつつ、「知ってさえいれば円滑に業務できる」という障害特性は伝えたり提案するようにしています。

雇用してみて実感するのは、障害のある方への配慮は、社員全員への配慮に

もつながり、良い職場作りの契機になるということ。また、これまでは問題解決能力を重視した正社員登用の基準しかありませんでしたが、障害のある方を対象に業務の範囲を限定した正社員「パートナー社員制度」を新たに設け、パートナー社員第1号のAさんの採用により会社に多様性がもたらされました。これからの活躍に期待しています。



徹底した
マニュアルの整備

経理補助として、複雑な経理システムを操作するAさん。何通りもの経理処理にあわせたマニュアルを自身で作成しています。その数なんと36種類。複雑な業務をこなすAさんに「きみにしかできない仕事だ」とは上司の弁。

見えるところに置く

総勢57人の部署の経理は多忙で、業務に優先順位をつけてこなさなければなりません。後回しにした仕事をうっかり忘れてしまわないように、仕事の依頼メールなどはパソコンのデスクトップに置きます。「自分には忘れっぽいという弱点があるので、『見える』ことで忘れるのを予防しています」とAさん。

ささいなことでも
具体的な指示

発注の取りまとめなどの業務では「納期はいつまで、何個をどこに発注する」という具体的な指示が、文章やメール、口頭で必ず伝えられます。「会話のなかから察しをつけることが難しいので助かります」とAさん。

予定変更は
事前にアピール

過去に教えてもらったやり方に変更が生じる場合、「以前はこう教えただけど…」という前置きをしてから説明があるなど、混乱のないよう、会話のなかに小さな気配りがあるそうです。「細やかな心遣いに、いつも感謝でいっぱいです」とAさん。